

概要

「感染症研究国際展開戦略プログラム（J-GRID）」、「感染症研究革新イニシアティブ（J-PRIDE）」が令和元年度に節目を迎えることから、事業のこれまでの取組に対する評価を行うとともに、令和2年度以降の文部科学省における感染症研究の推進の在り方を取りまとめた。

これまでの事業評価と感染症研究を巡る課題

- **最終年度を迎えたJ-GRID**については、
 - 各海外拠点の努力とPD・PS・POによるきめ細やかな課題管理の下、**着実な成果を順調に上げており、今後の発展を大いに期待**
 - 事業運営は適切であり、研究事業の「**必要性**」「**有効性**」「**効率性**」についても高く評価
 - 今後の発展に向けて、
 - ✓ **共通の課題に対する複数機関での共同研究**や国立感染症研究所とのより密接な連携、
 - ✓ 海外研究拠点やそこで得られる情報等を**国内の研究者が広く活用**できるようにするための更なる取組、
 - ✓ 海外拠点において研究対象とする疾患範囲の**拡大**等の必要性を指摘
- 今後の更なる展望に向けた課題として、①**感染症流行地における研究の必要性**、②**研究内容の拡大**、③**感染症研究者の確保**、を指摘
- **3年目を迎えたJ-PRIDE**については、
 - PD・PS・POの熱心な指導・助言の下、着実に
行われており、**幅広く新規性の高い基礎的研究は、今後の感染症対策の土台となり非常に重要な研究であり、成果が見え始めている。**
 - **事業運営、研究事業の「必要性」「有効性」「効率性」**についてはいずれも高く評価でき、特に「有効性」については、将来に向けて感染症研究の多様な発展の方向性を位置づけたという点で特に高く評価
 - 異分野の先端的な研究と連携・融合した基礎的研究と若手研究者の育成、臨床医との共同研究、長崎大学BSL 4施設等を活用した高病原性の病原体を扱う基礎的研究とそれを担う人材の育成等を引き続き推進

感染症研究の推進の在り方に関する検討会報告書(概要)

今後の感染症研究の在り方について

【感染症研究の重要性】

- グローバル化の進む社会においては、新たに流行が起きた感染症が国境を越えて短期間に拡大するリスクや慢性感染症の潜在的な感染拡大のリスクが増加しており、**今後も継続的に感染症研究を進めていくことが不可欠**
- 文部科学省が進める感染症研究においては、**我が国の基礎的研究の研究能力・研究体制の強化が極めて重要**

【文部科学省が進める感染症事業の方向性】

- 感染症の予防・診断・治療に関する基礎的研究の研究能力・研究体制の強化を図るため、**流行地における研究基盤の整備を引き続き推進**
- 国内外の大学・研究機関と拠点間における**研究ネットワークを「面」として捉え、大規模かつ多様な共同研究を効率的かつ効果的に実施し、感染症の知見の集約化を進め、成果の創出を加速**
- 国内の研究基盤については、BSL4施設完成後、速やかに研究開発が効率的かつ効果的に実施できるよう、**引き続き準備研究を進めるとともに、高度な研究を担う人材育成を推進**
- 多様な研究者の参画、先進的な研究を進める諸外国との連携を更に推進し、**今後の感染症研究を担う新たな人材の育成と斬新な発想による研究を促進**

【推進すべき具体的研究】

- ◆ 海外の感染症流行地の研究機関と連携して実施する研究
 - ・ 海外研究拠点に駐在して実施する研究
 - ・ 海外研究拠点で得られる検体・データ等を活用する研究
- ◆ 多様な分野との連携、先進的な研究を進める諸外国との連携した研究
- ◆ BSL 4 施設を中核とした感染症研究拠点での研究